

公共施設の老朽化対応をどうすすめるか

山本俊哉（明治大学理工学部建築学科教授）

コメントにあたって

維持管理・更新費の増大は全国的な課題、財政健全化が必要な千葉市は最重要課題。
基調講演を踏まえ、建築に関するポイントと参考事例を紹介。

1 減量のポイント

次世代に負担をかけないために、市民サービスの維持・向上を図りつつ、公共施設の総量を縮減する必要。

- ① それぞれで努力するだけでなく、千葉市全体としての数値目標を定めることが重要。
- ② 個々の施設のデータに基づいて、減量対象施設を定め、適正配置することが重要。
- ③ 同種施設の統廃合だけでなく、異種施設の統廃合で空間をシェアすることも重要。

2 参考にしたい事例

減量：高齢者施設と児童施設を統廃合した区民ひろば（豊島区）

機能更新：旧高浜第二小学校→千葉大学サテライトキャンパス（千葉市）

長寿命化：耐震補強+改修+増築で新築よりも安く長寿命化（清瀬市）

公民連携：施設は民間が整備して行政が取得。機能も相乗効果（紫波町）

3 住民の合意形成のポイント

- ① 中間組織がワークショップを開き、公開の意見交換会の場を設ける。そのため市は各種データを提供する。
- ② 施設類型別だけでなく地域ごとに取り組み、先行的なモデル事例の取り組みを共有する。それをトップランナーにして市全体で展開する。